



『行程記』 山口県文書館 宝暦末期(1760年頃)

山陽道

古代の山陽道、中世の筑紫大道、近世の西国街道(中国路・西国往還)とさまざまな名を持つ山陽道。自然環境の変化や瀬戸内海航路の形成、蒙古襲来による整備、また、近世城下町の建設や宿駅整備などさまざまな要因で変遷し、各時代の正確なルートの特定は困難ですが、どの時代においても近畿と北九州を結ぶ重要な道でした。これを前身とする道が現在の国道2号です。山陽自動車道もほぼ並行してこのルートを走っており、今もその重要性は変わっていません。姫路市内では、姫路城の外曲輪内を東西に縦断しています。

山陽道ルート

